参考（資料４）

調査1　子育て支援ニーズ調査結果

調査名	（調査１－①）就学前児童調査	（調査１－②）小学生調査
調査対象者	就学前児童（０歳～５歳）の保護者	小学生（小１～小６）の保護者
調査方法	アンケート調査（郵送配布・郵送回収）	
調査対象数	２,５００件	２,５００件
抽出方法	住民基本台帳より無作為に抽出	
調査期間	令和６年１月５日～２月５日まで ※回答締切日以降の２月末日までの回収分も集計に含めた。	

※調査結果概要を見る際の留意点

〇回答結果の割合（%）は、小数点以下第２位で四捨五入しており、単数回答（SA：シングルアンサー）でも、合計が 100.0%にならない場合があります。
〇複数回答可（MA：マルチアンサー）の設問の場合、回答数に対する選択肢ごとの示しているため、合計が 100.0%を超える場合があります。
〇図表内の n（number of case）は、集計対象者総数又は限定条件に該当する人数を表しています。
〇本文中の文章や選択肢について、長い項目は簡略化している場合があります。

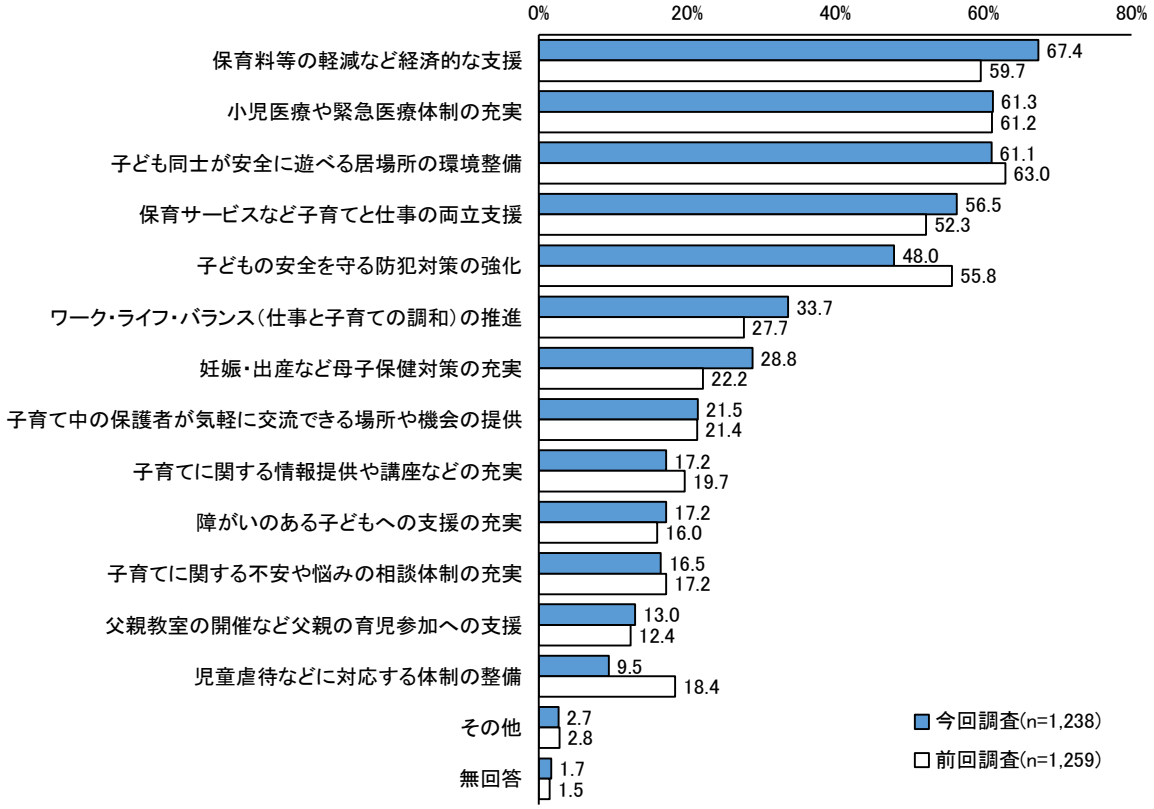
1　就学前児童調査（調査１－①）

（１）今後の子育て支援について

今後充実してほしい子育て支援について、「保育料等の軽減など経済的な支援」が 67.4%で最も多く、以下「小児医療や緊急医療体制の充実」が 61.3%、「子ども同士が安全に遊べる居場所の環境整備」が 61.1、「保育サービスなど子育てと仕事の両立支援」56.5%などとなっています。

前回調査と比較すると、概ね同様の傾向が見られる中、「保育料等の軽減など経済的な支援」が 7.7 ポイント増加、「妊娠・出産など母子保健対策の充実」が 6.6 ポイント増加、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と子育ての調和）の推進」が 6.0 ポイント増加しています。

◆今後充実してほしい子育て支援（MA）



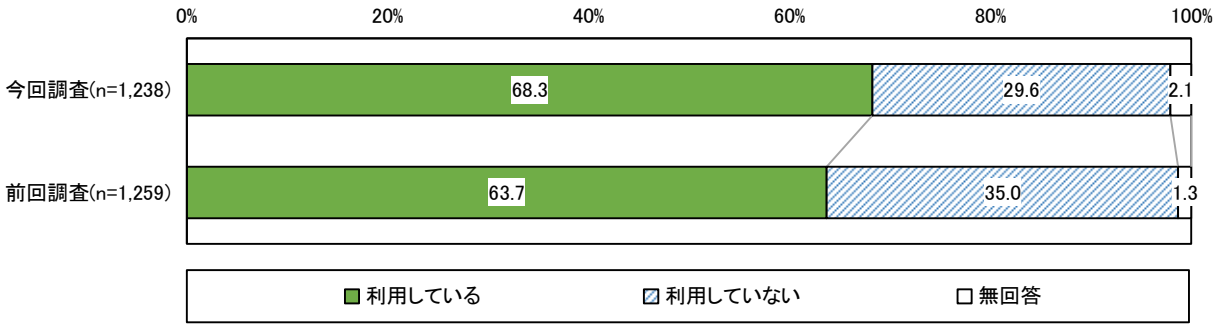
（2）教育・保育サービスの利用について

平日の施設やサービスの定期的な利用状況について、「利用している」との回答は 68.3%で、前回調査と比較すると、4.6%増加しています。

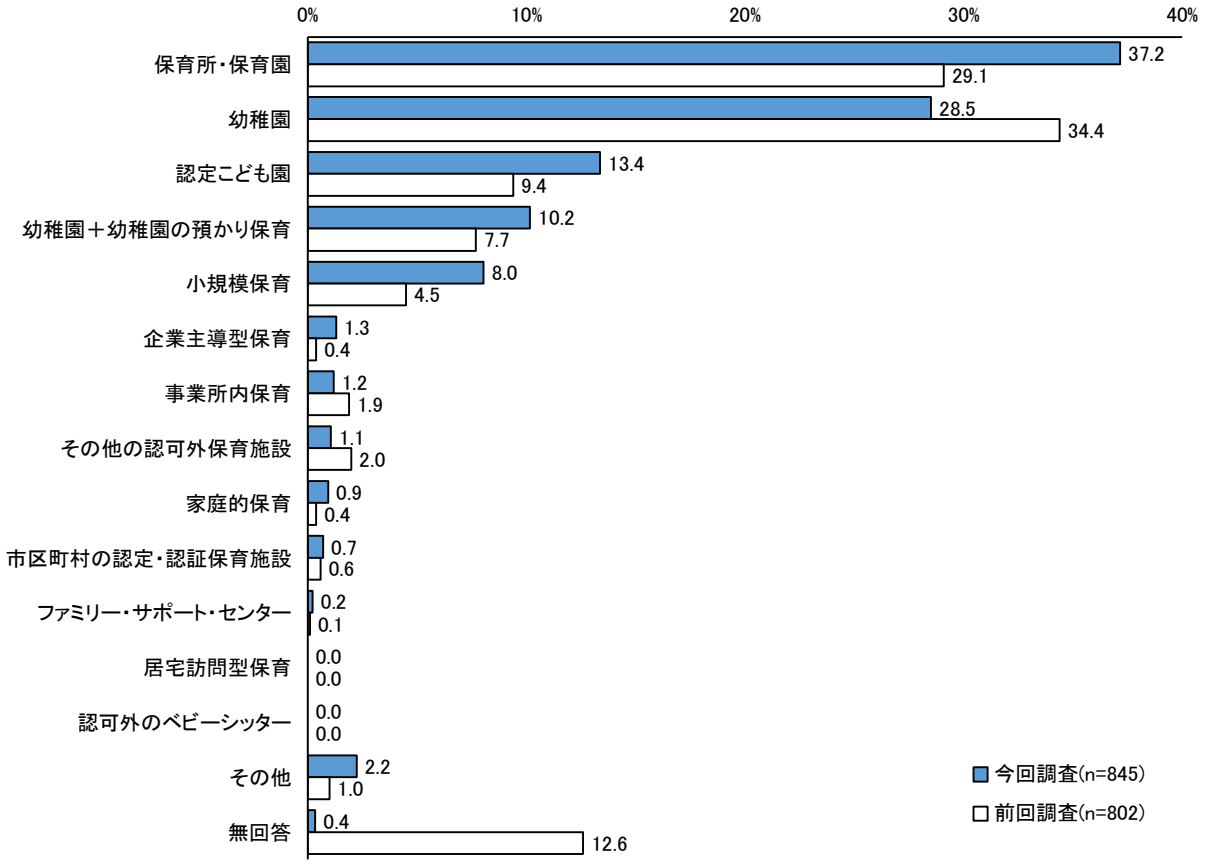
平日の施設やサービスを定期的に「利用している」と回答した家庭が、現在利用している施設やサービスについて、「保育所・保育園」が 37.2%で最も多く、以下「幼稚園」が 28.5%、「認定こども園」が 13.4%、「幼稚園＋幼稚園の預かり保育」が 10.2%などとなっています。

前回調査と比較すると、「保育所・保育園」が 8.1 ポイント増加、「認定こども園」が 4.0%増加、「小規模保育」が 3.5 ポイント増加している一方で、「幼稚園」は 5.9 ポイント減少しています。

◆平日の施設やサービスの定期的な利用状況（SA）



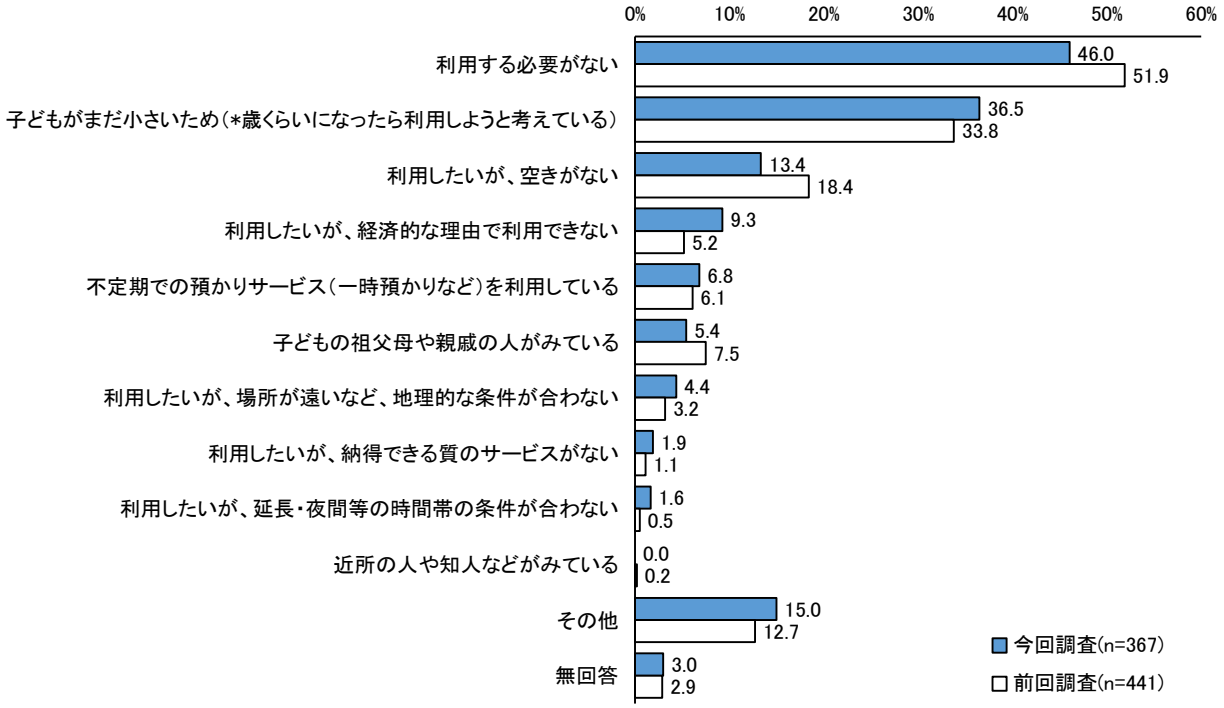
◆現在利用している施設やサービス（MA）



平日に定期的に施設やサービスを利用していない理由は、「利用する必要がない」が 46.0%で最も多く、次いで「子どもがまだ小さいため」が 36.5%となっています。

前回調査と比較すると、「利用したいが、経済的な理由で利用できない」が 4.1 ポイント増加しています。

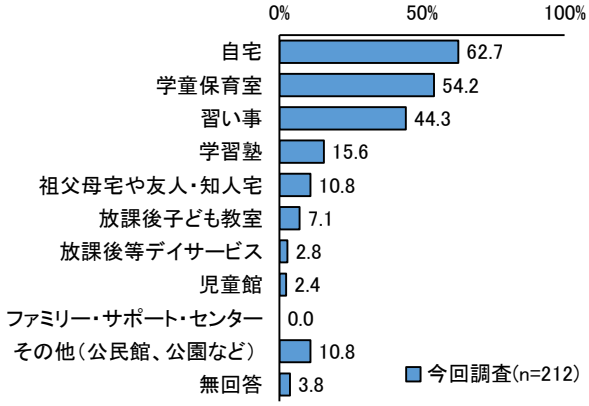
◆平日に定期的に施設やサービスを利用していない理由(MA)



調査対象の子どもが５歳以上の家庭では、放課後どのような場所で過ごさせたいかについて、「自宅」が 62.7 で最も多く、以下「学童保育室」が 54.2%、「習い事」が 44.3%、「学習塾」が 15.6%などとなっています。

「自宅」で過ごさせたい日数は、低学年時で平均 3.6 日、高学年時で平均 3.4 日、「学童保育室」で過ごさせたい日数は、低学年時で平均 4.5 日、高学年時で平均 4.1 日となっています。

◆【５歳以上】放課後どのような場所で過ごさせたいか(MA、平均日数)



	低学年時	高学年時
自宅	3.6日	3.4日
学童保育室	4.5日	4.1日
習い事	1.9日	2.1日
学習塾	1.2日	1.6日
祖父母宅や友人・知人宅	2.0日	2.4日
放課後子ども教室	3.0日	3.1日
放課後等デイサービス	3.8日	3.0日
児童館	3.3日	3.3日
ファミリー・サポート・センター	0.0日	0.0日
その他(公民館、公園など)	2.1日	2.6日

（3）子育てしやすい環境について

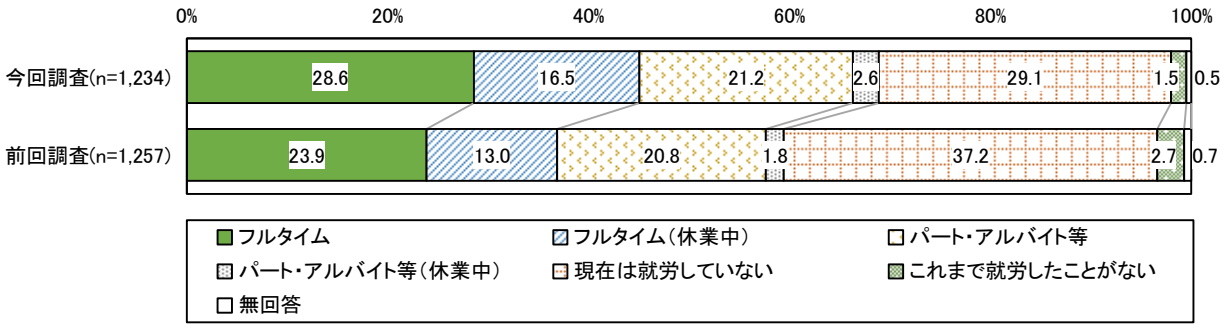
母親の就労状況について、「フルタイム」での就労は 28.6%、「パート・アルバイト等」での就労は 16.5%で、合わせると 49.8%、休業中を含めると 68.9%となっています。

前回調査と比較すると、「これまで就労したことがない」が 8.1 ポイント減少し、就労している（休業中を含む）割合が 9.4 ポイント増加しています。

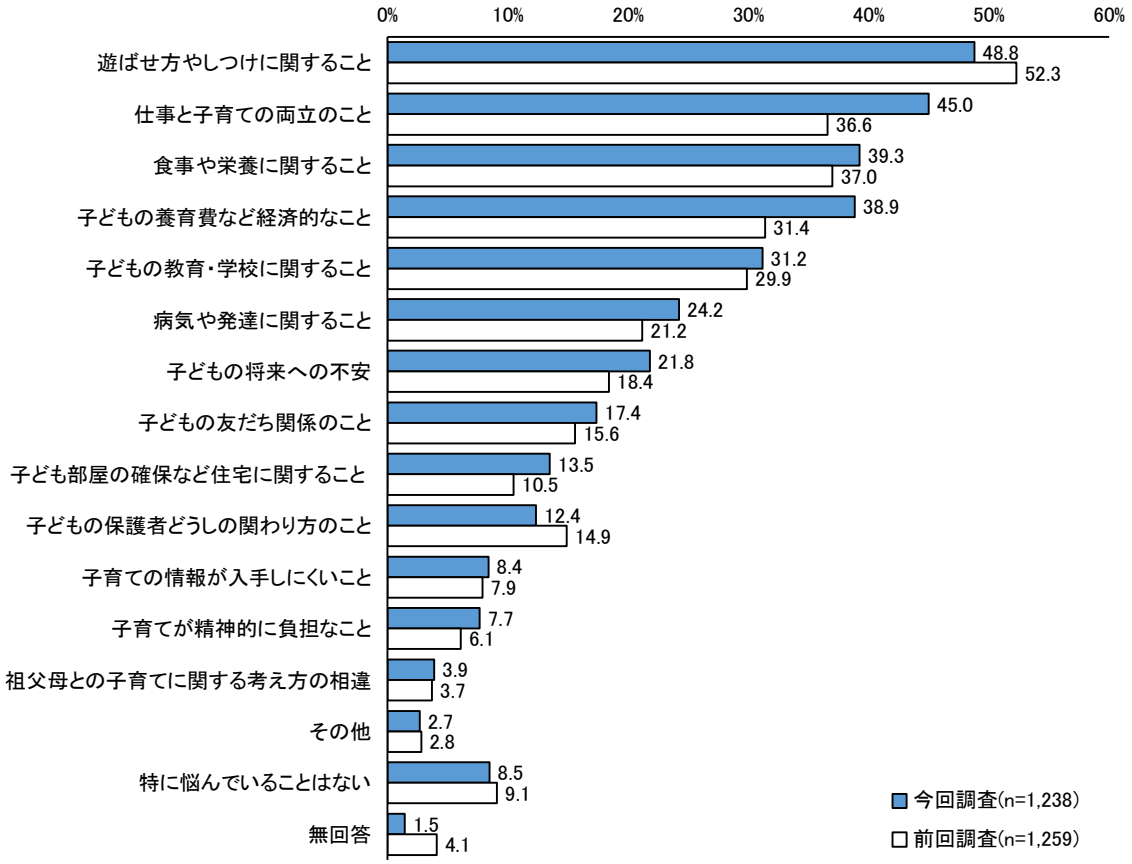
子育てに関して悩んでいることは、「遊ばせ方やしつけに関すること」が 48.8%で最も多く、以下「仕事と子育ての両立のこと」が 45.0%、「食事や栄養に関すること」が 39.3%、「子どもの養育費など経済的なこと」が 38.9%などとなっています。

前回調査と比較すると、「仕事と子育ての両立のこと」が 8.4 ポイント増加、「子どもの養育費など経済的なこと」が 7.5 ポイント増加しています。

◆母親の就労状況（SA）



◆子育てに関して悩んでいること（MA）

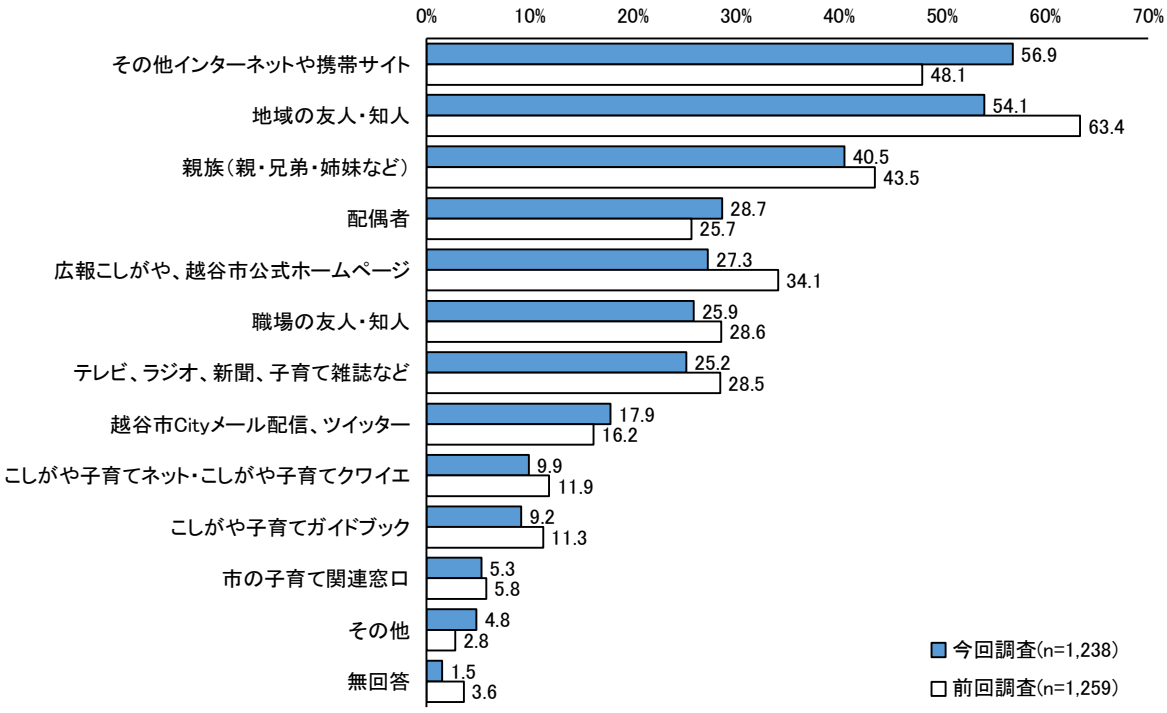


（4）子育てに関する情報について

子育てに関する情報の入手先について、「その他インターネットや携帯サイト」が 56.9%で最も多く、以下「地域の友人・知人」が 54.1%、「親族（親・兄弟・姉妹など）」が 40.5%、「配偶者」が 28.7%などとなっています。

前回調査と比較すると、「その他インターネットや携帯サイト」が 8.8 ポイント増加している一方で、「地域の友人・知人」が 9.3 ポイント減少、「広報こしがや、越谷市公式ホームページ」が 6.8 ポイント減少しています。

◆子育てに関する情報の入手先(MA)



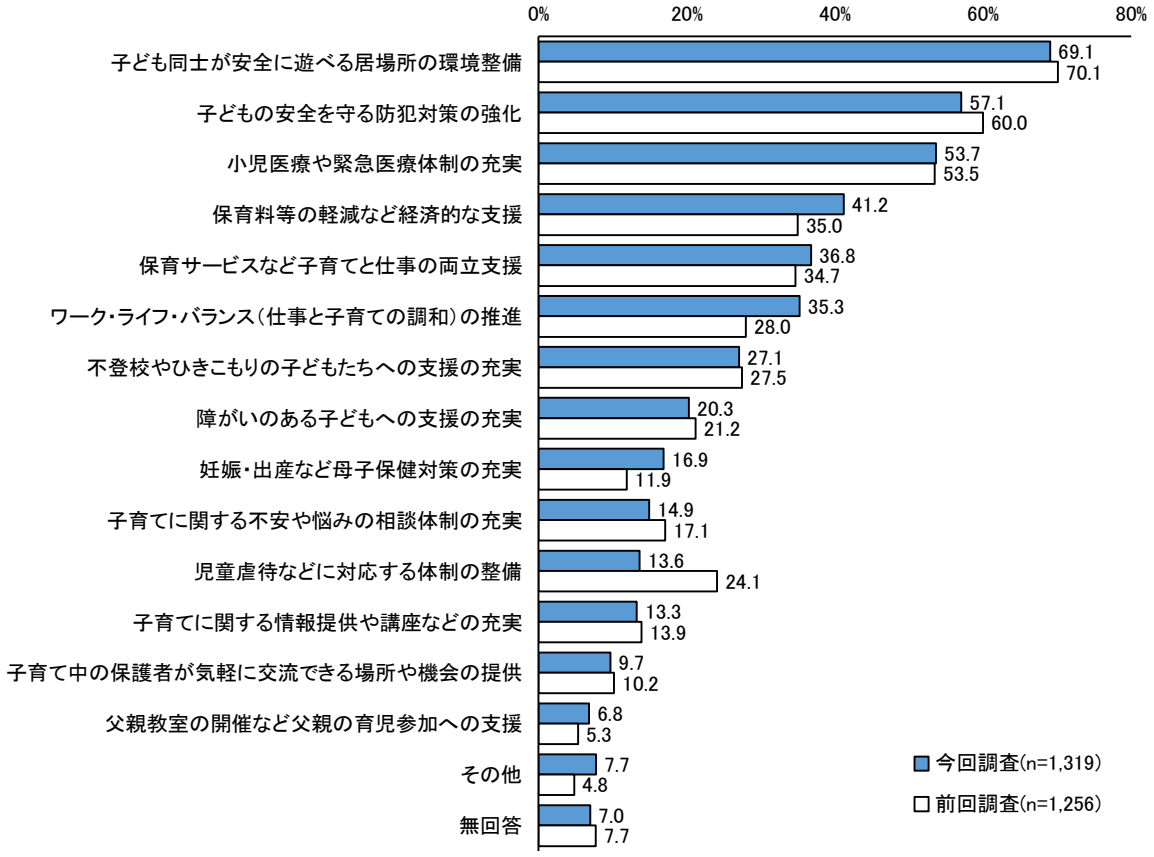
2　小学生調査（調査１－②）

（１）今後の子育て支援について

今後充実してほしい子育て支援について、「子ども同士が安全に遊べる居場所の環境整備」が69.1%で最も多く、以下「子どもの安全を守る防犯対策の強化」が 57.1%、「小児医療や緊急医療体制の充実」が 53.7%、「保育料等の軽減など経済的な支援」が 41.2 などとなっています。

前回調査と比較すると、概ね同様の傾向が見られる中、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と子育ての調和）の推進」が 7.3 ポイント増加、「保育料等の軽減など経済的な支援」が 6.2 ポイント増加、「妊娠・出産など母子保健対策の充実」が 5.0 ポイント増加しています。

◆今後充実してほしい子育て支援（MA）



（2）学童保育室の利用について

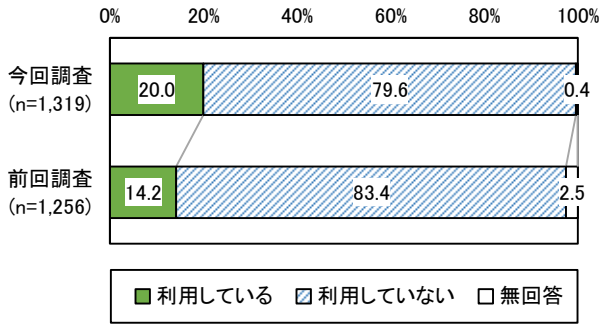
学童保育室の利用について、「利用している」との回答は 20.0%となっており、前回調査から 5.8 ポイント増加しています。また、「利用している」と回答した家庭の利用日数は、「5 日」が 63.3%で最も多く、前回調査から 8.2 ポイント増加しています。

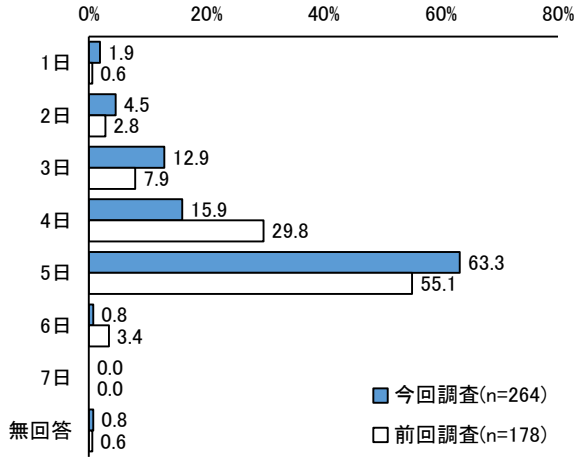
学童保育室に望むことは、「過ごし方の充実」が 54.5%で最も多く、以下「学校との連携強化」が 42.0%、「児童の安全確保」が 36.7%、「施設の充実」が 33.7%などとなっています。

前回調査と比較すると、「過ごし方の充実」が 11.8 ポイント増加、「学校との連携強化」が 8.9 ポイント増加しています。

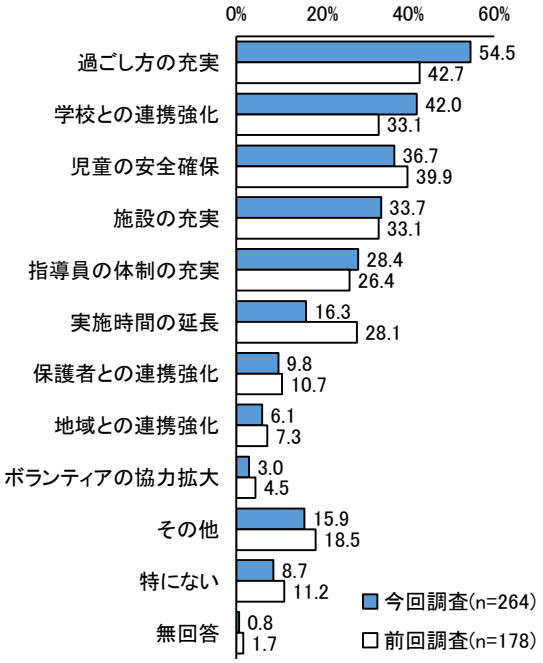
一方、学童保育室を利用していない理由は、「家に家族が在宅しているため」が 59.2%で最も多くなっており、前回調査と概ね同様の傾向が見られます。

◆現在学童保育室を利用しているか（SA、【利用家庭】利用日数）

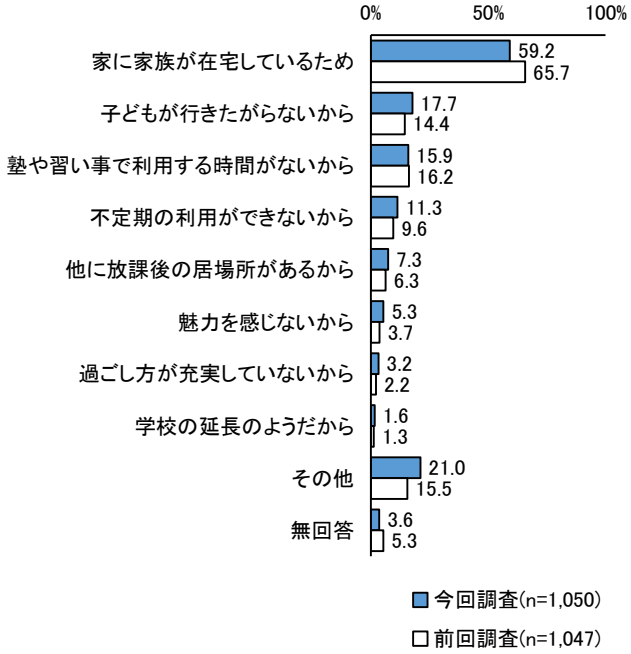




◆【利用家庭】学童保育室に望むこと（MA）



◆【未利用家庭】学童保育室を利用していない理由（MA）



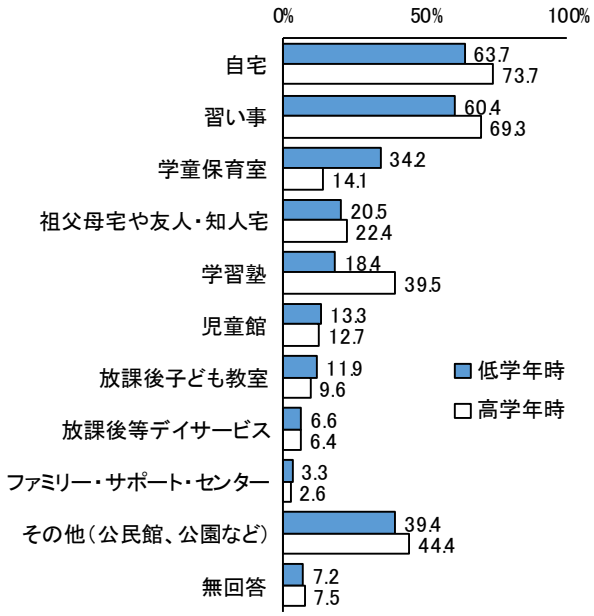
（3）放課後の過ごし方について

放課後どのような場所で過ごさせたいかについて、低学年時では、「自宅」が 63.7 で最も多く、以下「習い事」が 60.4%、「学童保育室」が 34.2%、「祖父母宅や友人・知人宅」が 20.5%などとなっています。高学年時では、「自宅」が 73.7 で最も多く、以下「習い事」が 69.3%、「学習塾」が 39.5%、「祖父母宅や友人・知人宅」が 22.4%などとなっています。

低学年時と高学年時を比較すると、低学年時は、「学童保育室」が 20.1 ポイント多くなっています。一方、高学年時は、「学習塾」が 21.1 ポイント、「自宅」が 10.0 ポイント、「習い事」が 8.9 ポイント多くなっています。

「自宅」で過ごさせたい日数は、低学年時で平均 3.4 日、高学年時で平均 3.2 日、「習い事」で過ごさせたい日数は、低学年時で平均 1.8 日、高学年時で平均 2.0 日、「学童保育室」で過ごさせたい日数は、低学年時で平均 4.3 日、高学年時で平均 3.5 日となっています。

◆放課後どのような場所で過ごさせたいか（MA、平均日数）



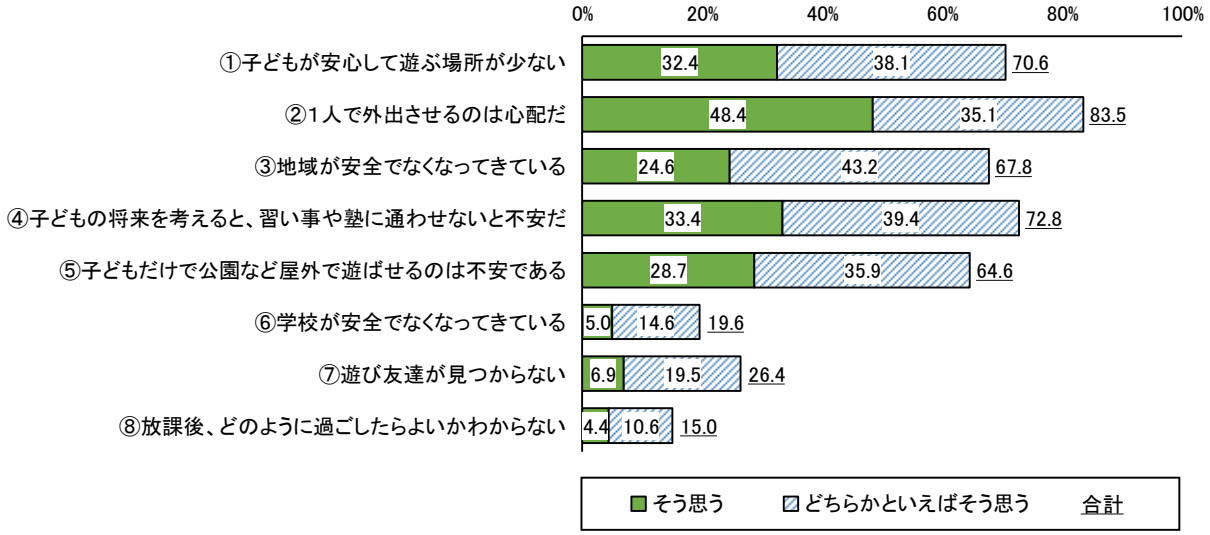
	低学年時	高学年時
自宅	3.4日	3.2日
習い事	1.8日	2.0日
学童保育室	4.3日	3.5日
祖父母宅や友人・知人宅	1.6日	1.6日
学習塾	1.4日	1.7日
児童館	1.4日	1.4日
放課後子ども教室	1.9日	1.8日
放課後等デイサービス	2.7日	2.8日
ファミリー・サポート・センター	1.8日	1.5日
その他（公民館、公園など）	2.2日	2.3日

（４）子どもの生活環境について

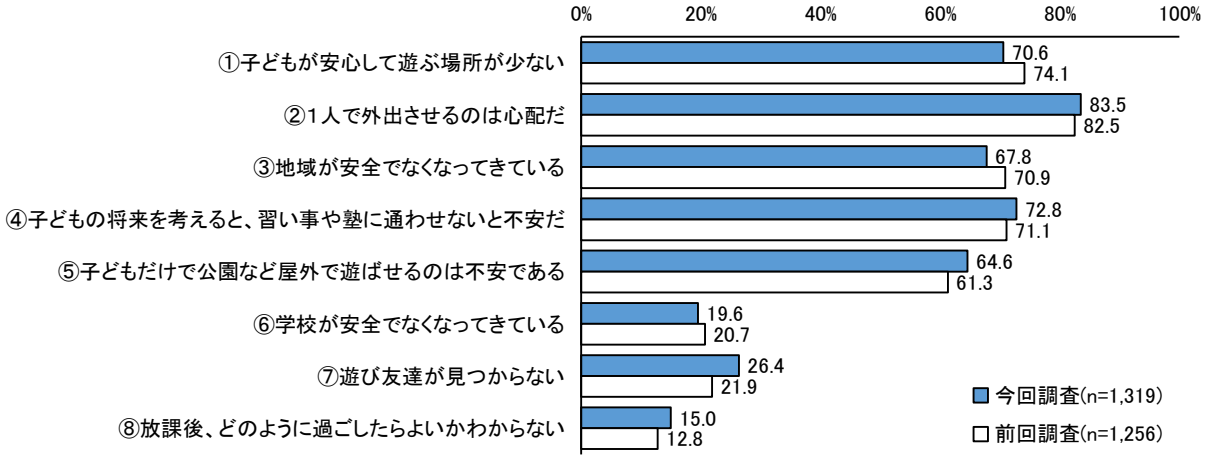
子どもの身近な生活環境について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた合計値を見ると、「②１人で外出させるのは心配だ」が 83.5%で最も多く、以下「④子どもの将来を考えると、習い事や塾に通わせないと不安だ」が 72.8%、「①子どもが安心して遊ぶ場所が少ない」が 70.6%、「③地域が安全でなくなってきている」が 67.8%などとなっています。

前回調査と比較すると、概ね同様の傾向が見られます。

◆子どもの身近な生活環境（SA）



◆子どもの身近な生活環境（合計値の経年比較）



（5）子どもの居場所について

放課後や休日に、よく利用する市の公共施設について、「公園」が 59.6%で最も多く、以下「小学校の校庭・体育館」が 26.5%、「図書館」が 16.3%、「児童館」が 8.0%などとなっています。

前回調査と比較すると、「図書館」が 6.8 ポイント減少しています。

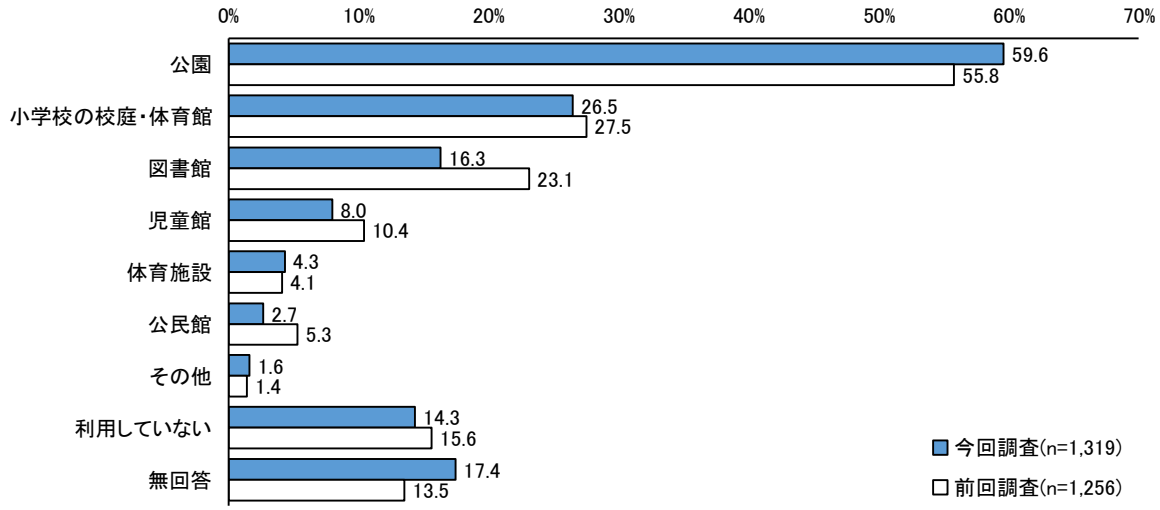
地域活動等への参加経験について、「参加したことがある・参加している」が 44.7%で最も多く、次いで「身近な地域の活動やグループ活動について知らない」が 23.7%となっています。

前回調査と比較すると、「参加したことがある・参加している」が 9.4 ポイント減少し、「身近な地域の活動やグループ活動について知らない」が 7.3 ポイント増加しています。

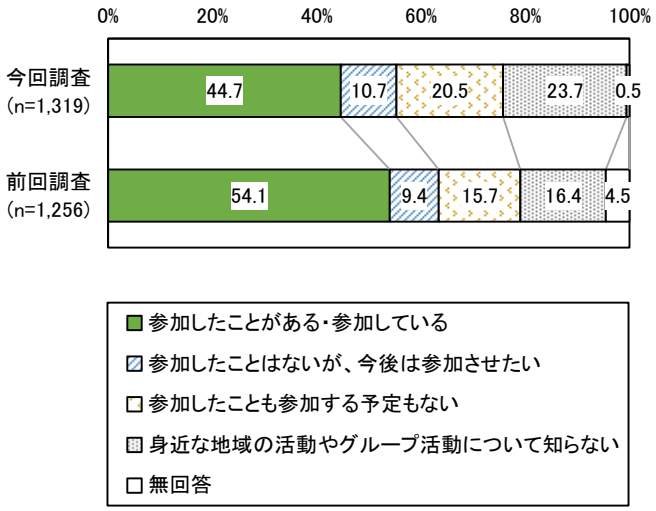
地域活動等への参加経験がある子どもが、参加したことがある活動について、「地域の子ども会活動」が 40.2%で最も多く、以下「自治会活動」が 39.4%、「地区コミュニティ推進協議会主催事業」が 30.7%、「地域のスポーツ団体」が 23.1%などとなっています。

前回調査と比較すると、「地域のスポーツ団体」以外はいずれも減少しています。

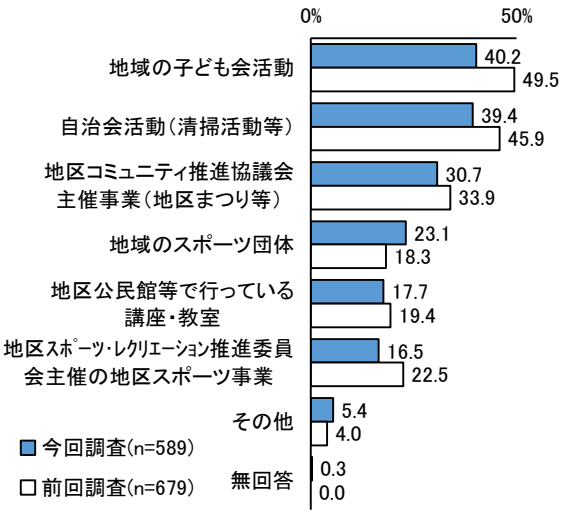
◆放課後や休日に子どもがよく利用する市の公共施設（MA）



◆子どもの地域活動等への参加経験（SA）



◆参加したことがある活動（MA）



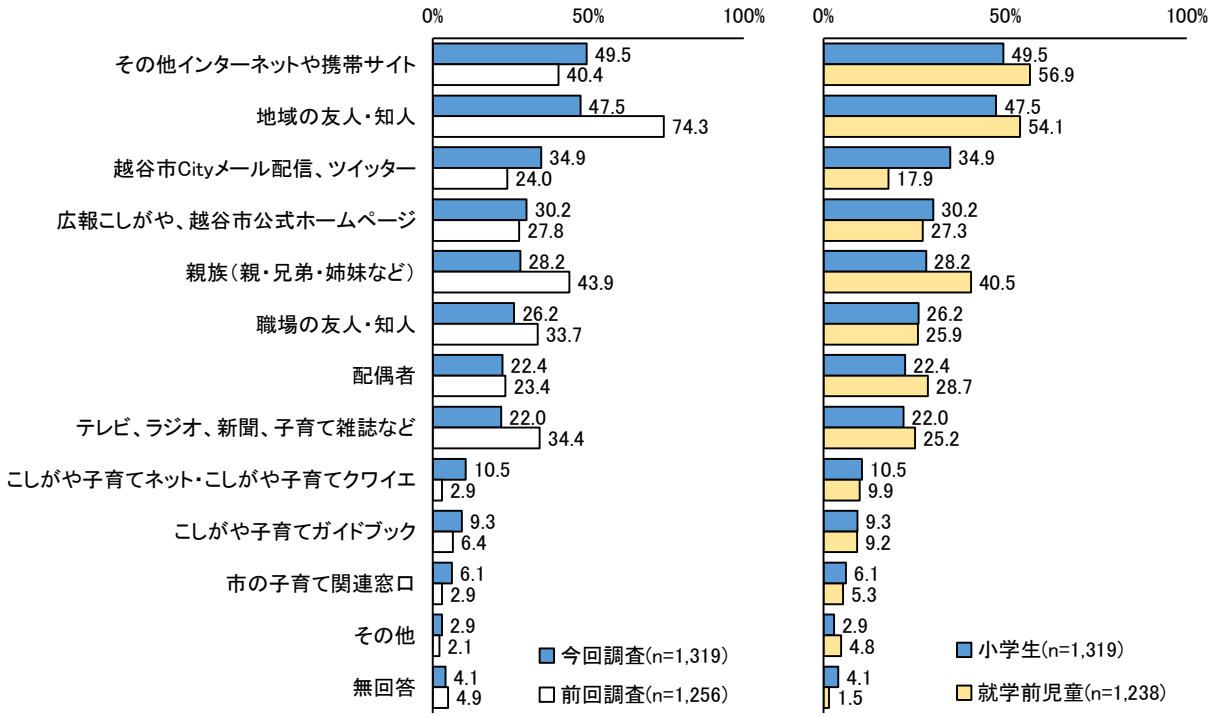
（6）子育てに関する情報について

子育てに関する情報の入手先について、「その他インターネットや携帯サイト」が 49.5%で最も多く、以下「地域の友人・知人」が 47.5%、「越谷市 City メール配信、ツイッター」が 34.9%、「広報こしがや、越谷市公式ホームページ」が 30.2%などとなっています。

前回調査と比較すると、「越谷市 City メール配信、ツイッター」が 10.9 ポイント増加、「その他インターネットや携帯サイト」が 9.1 ポイント増加している一方で、「地域の友人・知人」が 26.8 ポイント減少、「親族（親・兄弟・姉妹など）」が 15.7 ポイント減少、「テレビ、ラジオ、新聞、子育て雑誌など」が 12.4 ポイント減少しています。

就学前児童調査と比較すると、小学生では、「越谷市 City メール配信、ツイッター」が 17.0 ポイント多くなっています。一方、就学前児童では、「親族（親・兄弟・姉妹など）」が 12.3 ポイント多くなっています。

◆子育てに関する情報の入手先(MA)



調査２　こどもの生活実態調査結果

調査2－①　小学5年生・中学2年生調査

項目	内容
調査対象者	小学5年生の保護者、中学2年生の保護者
調査方法	アンケート調査（郵送配布・郵送回収）
調査対象数	3,000 件　（小5保護者：1,500 件、中2保護者：1,500 件）
回収数（率）	1,704 件（56.8%）
調査期間	令和６年１月5日～2月5日まで

1　小学5年生・中学2年生調査（調査２－①）

（1）等価世帯収入について

本調査においては、国調査※の算出方法に基づき「収入が低い水準の世帯（中央値の２分の１未満）」、「収入が中低位の水準の世帯（中央値の ２ 分の １ 以上中央値未満）」、「収入が高い水準の世帯（中央値以上）」の３区分に分類を行いました。

その結果、越谷市の等価世帯収入の中央値は 375 万円と国の中央値 317.54 万円を上回り、「収入が低い水準の世帯」に該当する割合は、全体で 10.3%、学年別では小学５年生では 9.4%、中学２年生では 10.9%となっています。

※「令和 ３ 年　子供の生活状況調査の分析」における等価世帯収入の算出方法に基づき計算を行った。国調査における等価世帯収入の中央値は 317.54 万円、等価世帯収入の中央値の2分の1は 158.77 万円となっている。

等価世帯収入の中央値	等価世帯収入の中央値の２分の１
375 万円	187.5 万円

上段：件、下段：％

	合計	**収入が低い水準の世帯**（中央値の２分の１未満）	**収入が中低位の水準の世帯**（中央値の２分の１以上中央値	**収入が高い水準の世帯**（中央値以上）	無回答
全体	1704	175	606	820	103
	100.0	10.3	35.6	48.1	6.0
小学５年生	797	75	292	382	48
	100.0	9.4	36.6	47.9	6.0
中学２年生	887	97	311	430	49
	100.0	10.9	35.1	48.5	5.5

※全回答件数 1,704 件のうち、103 件（6.0%）は、年間収入または同居家族の人数の情報が「無回答」であったことから、分類ができなかった。

(2)家族類型について

●同居家族及び家族全員の人数、ひとり親世帯に該当するかの設問よりひとり親世帯の判定を行ったところ、「母子世帯」が 6.5%、「父子世帯」が 0.9%という結果となりました。

(3)生活状況や保護者の就労について

●等価世帯収入をひとり親世帯の判定別に見ると、ひとり親世帯ではない世帯では「収入が高い水準の世帯」が半数を超えるのに対し、母子世帯では「収入が低い水準の世帯」が 58.6%となっています。

単位：%

	合計(人)	**収入が低い水準の世帯**(中央値の 2 分の 1 未満)	**収入が中低位の水準の世帯**(中央値の 2 分の 1 以上中央値	**収入が高い水準の世帯**(中央値以上)	無回答
全体	1704	10.3	35.6	48.1	6.0
ひとり親世帯でない	1574	6.7	36.3	51.1	5.8
母子家庭	111	58.6	25.2	9.9	6.3
父子家庭	15	26.7	46.7	26.7	0.0

●過去 1 年間に支払えなかったことが「あった」割合は、収入が低い水準の世帯で税金・国民健康保険料が 25.7%、水道料金・電気料金・ガス料金・電話料金がいずれも 1 割台前半となっています。また、お金が足りなくて衣服が買えなかった経験についても同様に 1 割程度となっています。

●収入が高い水準の世帯では、父親・母親ともに「正社員・正規職員」の割合が高くなっています。一方で、母子世帯においても母親の 45.9%が「正社員・正規職員」となっています。

●収入が低い水準の世帯では、母親が働いていない理由として「自分の病気や障害のため」が 32.3%と最も高くなっています。

(4)教育上の課題

●こどもの将来の進学の希望については、全体、等価世帯収入別いずれも「大学」が最も高くなっています。一方、現実については、収入が低い水準の世帯では「高校まで」が最も高くなっており、その理由として半数以上が「家庭の経済的な状況から考えて」をあげています。

●こどもの学校での成績については、収入が高い水準の世帯では「良好」が32. 0%で最も高くなっています。また、収入が低い水準の世帯では、「あまりよくない」と「よくない」の合計が 28.6%となっています。

●こどもから、勉強や成績のことについて話をしてくれるかについては、『あてはまらない(「あてはまらない」と「どちらかといえば、あてはまらない」の合計)』割合は収入が低い水準の世帯で 31.4%となっています。また、収入が高い水準の世帯では、19.5%となっています。

（5）生活・健康上の課題

●朝食を「毎日食べる」割合は、収入が低い水準の世帯で 69.7%と他の属性に比べて低くなっています。

●収入が低い水準の世帯では、夕食をこども 1 人で食べる割合が高い傾向が見られ、その理由として 6 割以上が「働いている保護者の帰宅が遅いから」をあげています。

●収入が低い水準の世帯では、治療中・未治療にかかわらず、むし歯がある割合が高くなっています。

●問 22 この 1 ヶ月の保護者の気持ち（全 6 問）に関する回答結果を得点化し、合計点（K6 得点※）を算出したところ、「10 点以上」は収入が低い水準の世帯が 39.4%、収入が高い水準の世帯で 10.5%と収入が低い層ほど得点が高くなっています。また、母子家庭で「10 点以上」が 41.4%と高い値となっています。

※国民生活基礎調査でも設定されている設問であり、こころの健康状態を測る指標。

得点	判定	内容
0～4点	問題なし	こころの健康について大きな問題はない。
5～9点	要観察	ストレスが溜まった状態。
10 点以上	要注意	こころが疲労している状態。必要に応じて受診・相談を。

（6）悩みや必要とする支援について

●こどものことで悩んでいることについては、収入が低い水準の世帯で多くの項目で他の属性を上回っています。特に、「こどもとの関わり方」「子どもと過ごす時間が持てない」「子どもの不登校やひきこもり」などの割合が高くなっています。

●現在必要とする支援については、所得の高低にかかわらず「子どもの就学にかかる費用の軽減」が最も高くなっています。また、収入が低い水準の世帯では「様々な行政サービスの申請や相談が一つの場所でできること」「一時的に必要となる資金の貸付」「子どもの教育・進学に関する相談」「自身の就職・転職のための支援」などの割合が高くなっています。

調査2－② 関係機関・団体調査

項目	内容
調査対象者	福祉関係機関、教育関係機関、こどもの貧困対策に関する支援団体、子育て支援団体
調査方法	直接配布または郵送配布・郵送回収
調査実施期間	令和6年1月中旬にヒアリング調査、2月に調査票配布
調査対象団体数	80 団体
回収数（率）	53 件（66.3%）
直接ヒアリングの実施	5団体（越谷市教育センター、青少年相談室、フリースクール越谷らるご、児童発達支援センター、こども食堂 ぽらむの家）

2 関係機関・団体調査（調査 2－②）

■調査結果の概要

経済的に困窮していると感じるこどもや保護者の状況	
貧困以外で抱える問題	・複合的な問題・課題によるこどものヤングケアラー化や世帯の孤立化 ・保護者の疾患や障がい、保護者の虐待・DV 経験による PTSD ・こども自身やきょうだいなど家族の障がい ・多子世帯、ひとり親世帯、外国籍世帯など ・支援が必要な保護者ほど介入を拒み一人で頑張ろうとしてしまう。
生活や学習の様子で特徴的な状況	・早寝早起き、朝ごはんを食べる、歯みがきなど基本的な生活習慣や学習習慣が身についていない。 ・むし歯があっても保護者が歯科に連れて行かないなど、こどもの健康に対する関心が薄い。 ・給食のために登校する面があり、夏休みなどの長期休み期間中の栄養不足が心配。
保護者との関係	・保護者の気持ちの余裕がないため、こどもはさみしさを我慢する傾向にある。 ・親子の間で支配関係があり、親に要求をする、困っていることを伝えることを諦めている子どもが多い。
貧困がこどもや保護者に与える影響	・幼少期は心身の影響が中心だが、成長に従い、学習面やコミュニケーション・人との関わりなど影響が大きくなる。 ・不登校が低年齢化することで、基礎学力が身につかない。

必要と感じる支援	・保護者を孤立させないための信頼関係の構築、見守り体制 ・保護者の就労支援だけではなく、家族全体を支援する視点 ・小学校高学年位の年代のこどもへの生きる力を身につけるための教育（自炊やお金のこと等）
必要な市の取組	・行政に相談することを「敷居が高い」と感じる保護者が多いため、相談しやすい環境や体制づくり ・関係機関や庁内各課との連携・情報の共有 ・支援を必要とする人に届くようなわかりやすい情報発信 ・学校応援団をはじめ開かれた学校づくり、地域との連携 ・スクールソーシャルワーカーの配置拡充

外国籍のこどもや保護者の状況	
外国籍のこどもや保護者の抱える課題	・両親ともに外国籍で日本語が習得できていない場合、園の持ち物やルールについて意思の疎通が難しい。また、文化の違いにより集団での活動が難しいこともある。（保育園・幼稚園） ・通学していても、学習支援が受けられず勉強がわからないまま放置されていると思われるケースがある。 ・保護者よりもこどもの方が日本語を早く覚えた場合、こどもが通訳のように立ち回ることがある。
必要な支援	・親子ともに日本語習得の支援が必要。 ・こどもの就学にあたり、日本の学校の仕組みや進学にかかる費用、支払い等についての情報提供や相談対応、面談への同行等、支援が必要。 ・日本の社会に適応出来るよう、わかりやすい情報提供やサービスの充実と共に保護者への啓発が必要。

調査3　こども・若者からの意見聴取

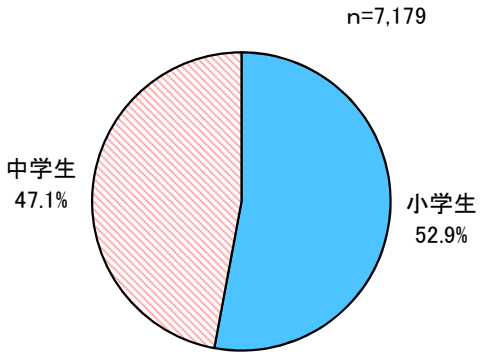
1 「小学5年生」から「中学2年生」を対象としたアンケート調査（調査3－①）

調査名	（調査3-①）「小学5年生」から「中学2年生」を対象としたアンケート調査
調査対象者	越谷市内の小中学校に通う小学5年生～中学2年生の児童・生徒
調査方法	アンケート調査（インターネットでの配布・回収※） ※小・中学校で配付されているタブレットを活用
調査対象数	11,510 件
回収数（率）	7,179 件（62.4%）
調査期間	令和６年１月 29 日～2月 15日まで

（１）小学生・中学生の内訳

回答者の内訳は、小学生が 52.9%、中学生が 47.1%となっています。

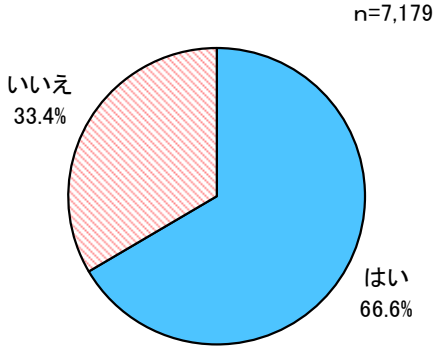
◆通っている学校（SA）



（２）家や学校以外に「ここに居たい」と感じる居場所がほしいか

家や学校以外に「ここに居たい」と感じる居場所がほしいかどうかについて、「はい」が 66.6%、「いいえ」が 33.4%となっています。

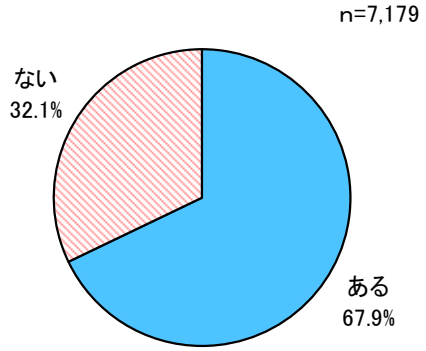
◆家や学校以外に「ここに居たい」と感じる居場所がほしいか（ＳＡ）



（３）家や学校以外に「ここに居たい」と感じる居場所があるか

家や学校以外に「ここに居たい」と感じる居場所があるかどうかについて、「ある」が 67.9%、「ない」が 32.1%となっています。

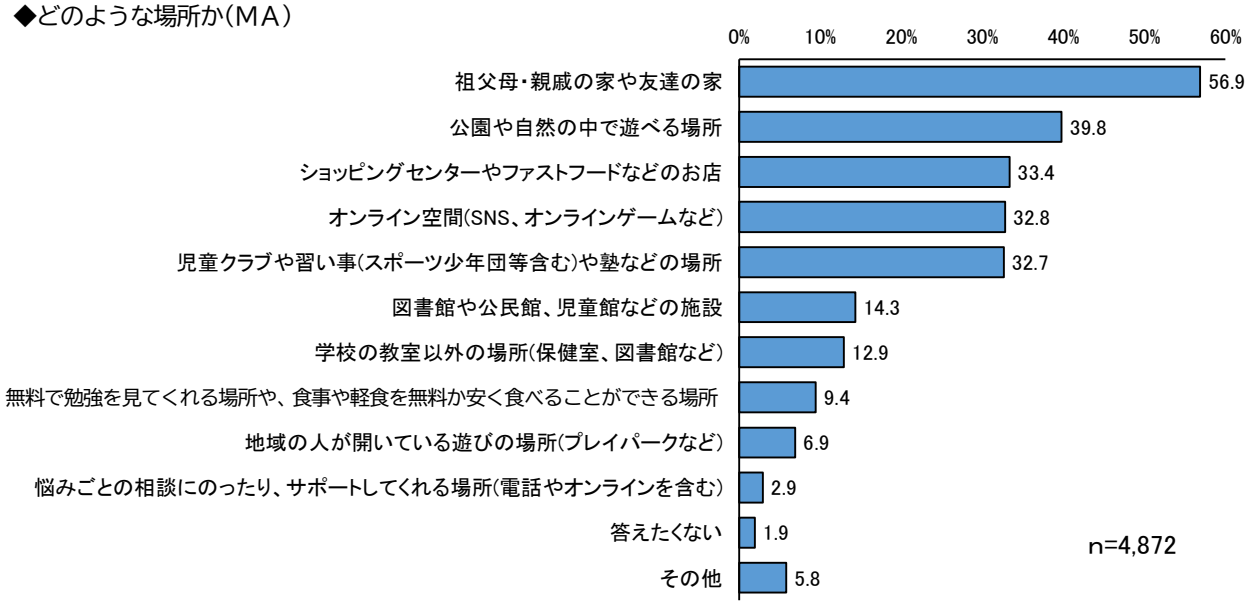
◆家や学校以外に「ここに居たい」と感じる居場所があるか（ＳＡ）



（４）家や学校以外に「ここに居たい」と感じる居場所が「ある」→それはどのような場所か

居場所が「ある」と回答した人に、どのような場所か聞いたところ、「祖父母・親戚の家や友達の家」が 56.9%と最も多く、以下「公園や自然の中で遊べる場所」が 33.4%などとなっています。

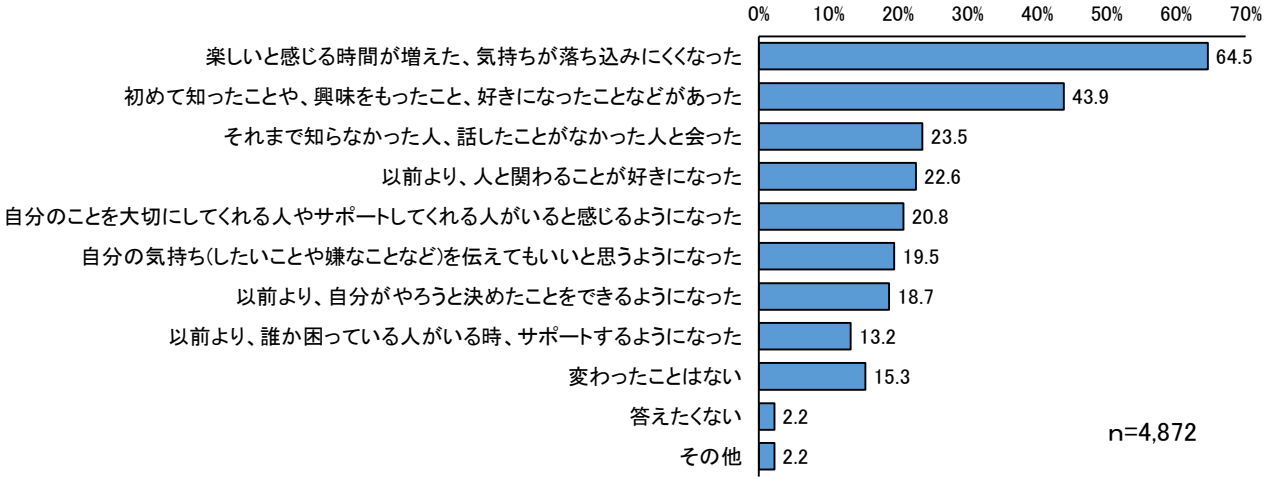
◆どのような場所か（ＭＡ）



（5）その場所に行くようになって変わったことはあるか

その場所に行くようになって変わったことは、「楽しいと感じる時間が増えた、気持ちが落ち込みにくくなった」が 64.5%と最も多く、以下「初めて知ったことや、興味をもったこと、好きになったことなどがあった」が 43.9%、「それまで知らなかった人、話したことがなかった人と会った」が 23.5%などとなっています。

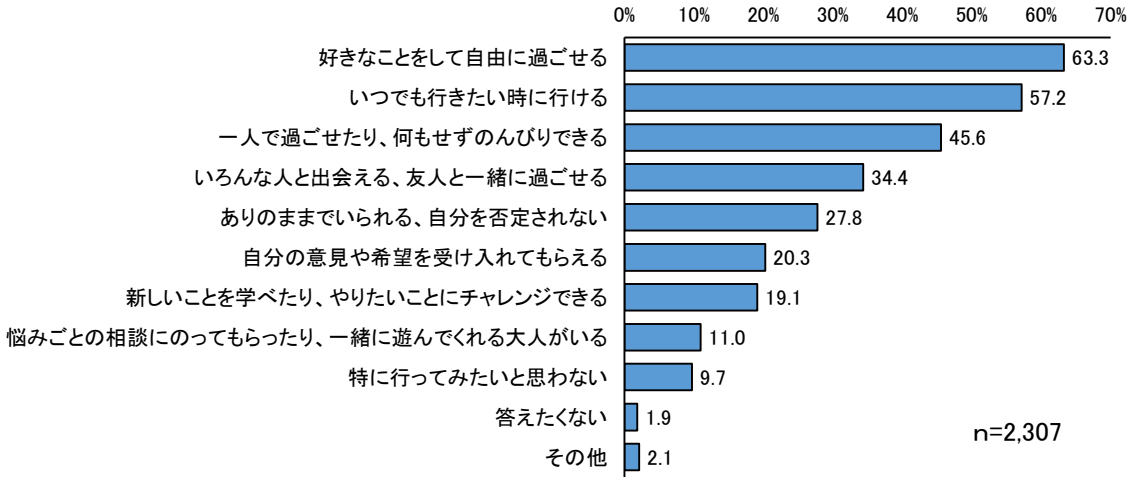
◆居場所に行くようになって変わったこと（MA）



（6）家や学校以外に「ここに居たい」と思う居場所が「ない」→どのような場所があれば行ってみたいと思うか

居場所が「ない」と回答した人に、どのような場所があれば行ってみたいか聞いたところ、「好きなことをして自由に過ごせる」が 63.3%と最も多く、以下「いつでも行きたい時に行ける」が 57.2%、「一人で過ごせたり、何もせずのんびりできる」が 45.6%などとなっています。

◆どのような場所があれば行ってみたいと思うか（MA）



（7）越谷市にこれからどのようなことをしてもらいたいか

市にしてもらいたいことを自由回答によりたずねたところ、1,620 人の方より回答を頂きました。

■主な意見

●こどもの遊ぶ場所を増やしてほしい

・公園、体育館、児童館、遊園地、アミューズメント施設など
・無料で遊べる場所
・サッカー、野球、バスケットボールなどボール遊びができる場所
・友達とゲームやおしゃべりをしたり、自由に過ごせる場所
・自然や動物とふれあえる場所
・中学生以上も遊べる場所

●イベントやお祭りをしてほしい

・こどもが楽しめるようなイベント・お祭り
・みんなと交流できるイベント・お祭り
・越谷市の魅力が伝わるようなイベント・お祭り
・スポーツやゲームの大会

●こどもの居場所を増やしてほしい

・勉強ができる場所（1人で静かに、みんなで話し合いながら　等）
・いつでも、こどもだけで気軽に行ける場所
・みんなが楽しく安全に過ごせる場所

●学校生活について

・いじめの対策をきちんとしてほしい（見て見ぬふりをしないで、いじめられた側が学校に行けなくなるのはおかしい、いじめた側のケアが必要では　等）
・体育館にエアコンがほしい
・学校の設備（トイレ、校庭の遊具や芝生　等）をきれいにしてほしい
・学校の先生との関係改善（平等ではない、態度が悪い、自分が悪くても謝らない　等）
・授業の改善（時間を短く、オンライン授業を増やしてほしい　等）
・給食の改善（おいしく、給食費の無償化　等）
・校則をゆるくしてほしい、自分たちの意見で決めたい

●生活環境について

・道路環境を良くしてほしい（道路のひび割れ、歩道整備、街灯の設置　等）
・安全に暮らせるようにしてほしい（不審者対策、治安の向上　等）
・ごみのないきれいなまちづくりをしてほしい（ごみ拾いをする、ポイ捨てをなくす　等）
・自然を増やしてほしい
・飲食店や商業施設を増やしてほしい
・図書館を増やしてほしい、図書館の本を増やしてほしい

2 義務教育修了者から39歳までを対象としたアンケート調査（調査3－②）

調査名	（調査 3-②） 義務教育修了者から39歳までを対象としたアンケート調査
調査対象者	15～39 歳のこども・若者
調査方法	アンケート調査 （郵送配布、郵送・インターネット回収を併用）
調査対象数	5,000 件
回収数 （回収率）	1,401 件（郵送 531、WEB 870） 28.0% （郵送 10.6%、WEB 17.4%）
調査期間	令和 6 年 1 月 5 日～2月5日まで

（1）回答者の属性について

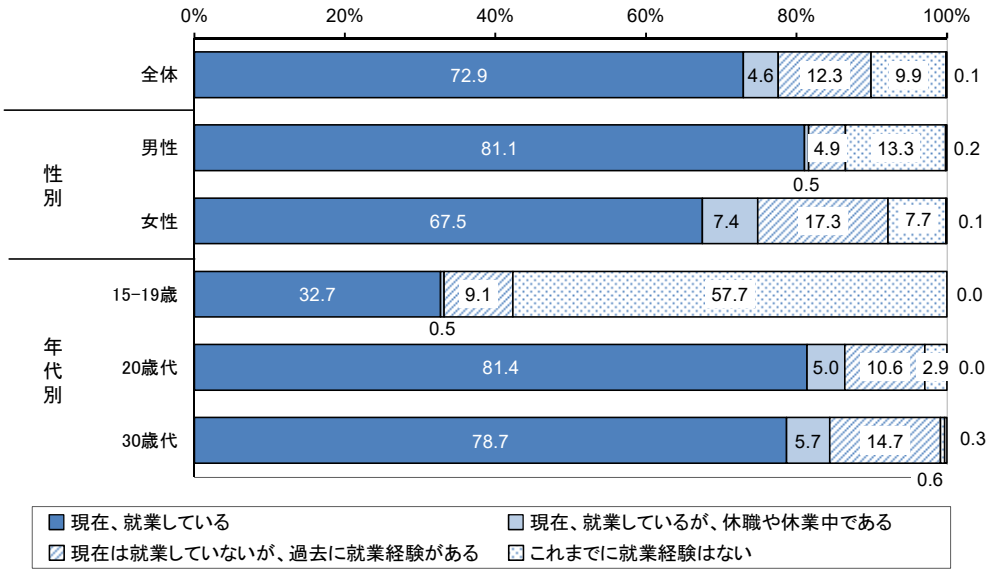
●回答者の性別は、男性 39.2%、女性 60.2%と女性の回答が多くなっています。また、性別「その他」は 0.6%（8人）となっています。

●また、年代は「15～19 歳」が 15.0%、「20 歳代」が 34.6%、「30 歳代」が 50.4%となっています。

●現在の婚姻状況は、「未婚」が 51.8%、「配偶者あり」が 45.3%、「配偶者と離別（離婚）」が 2.6%となっています。

●現在の仕事は、15～19 歳では「学生・生徒」が 95.7%、20 歳代・30 歳代では「正規の社員・職員・従業員」が5割台で最も高くなっています。それと符合するように、就業経験については、15～19 歳では「これまでに就業経験はない」が5割台後半、20 歳代・30 歳代では「現在、就業している」が7割台後半～約8割で最も高くなっています。

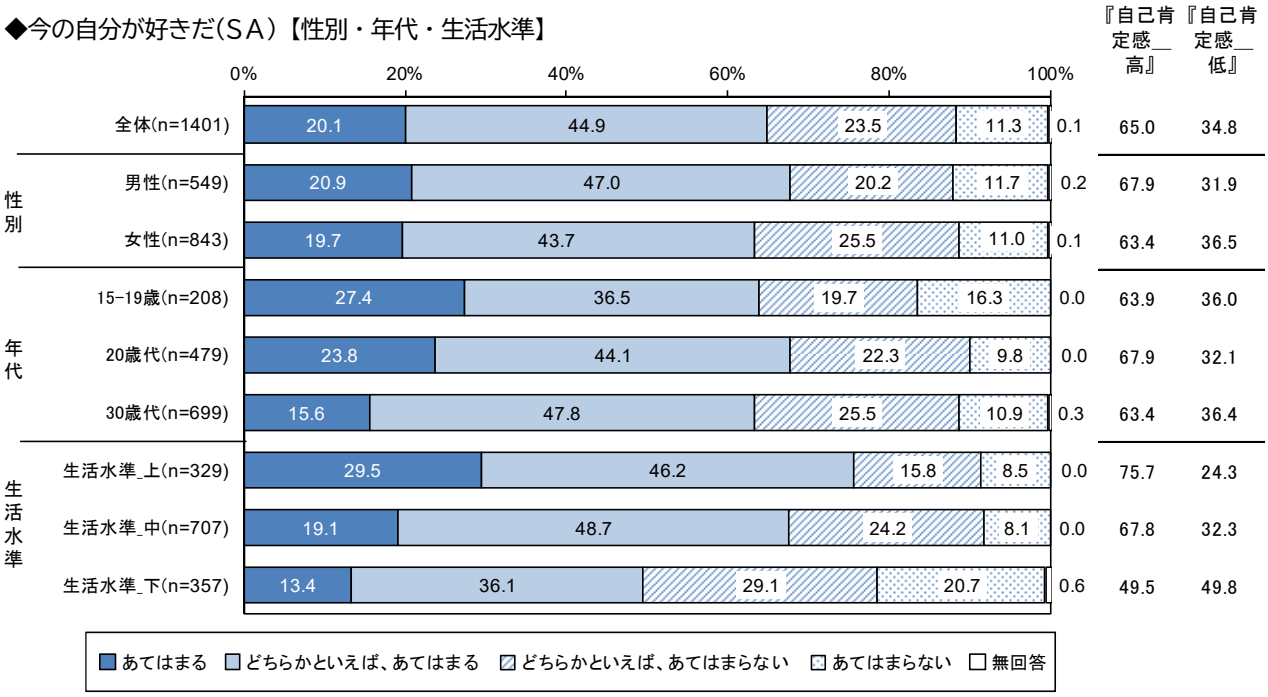
◆就業経験（SA）【性別・年代】



(2)自己肯定感や幸福感、孤独について

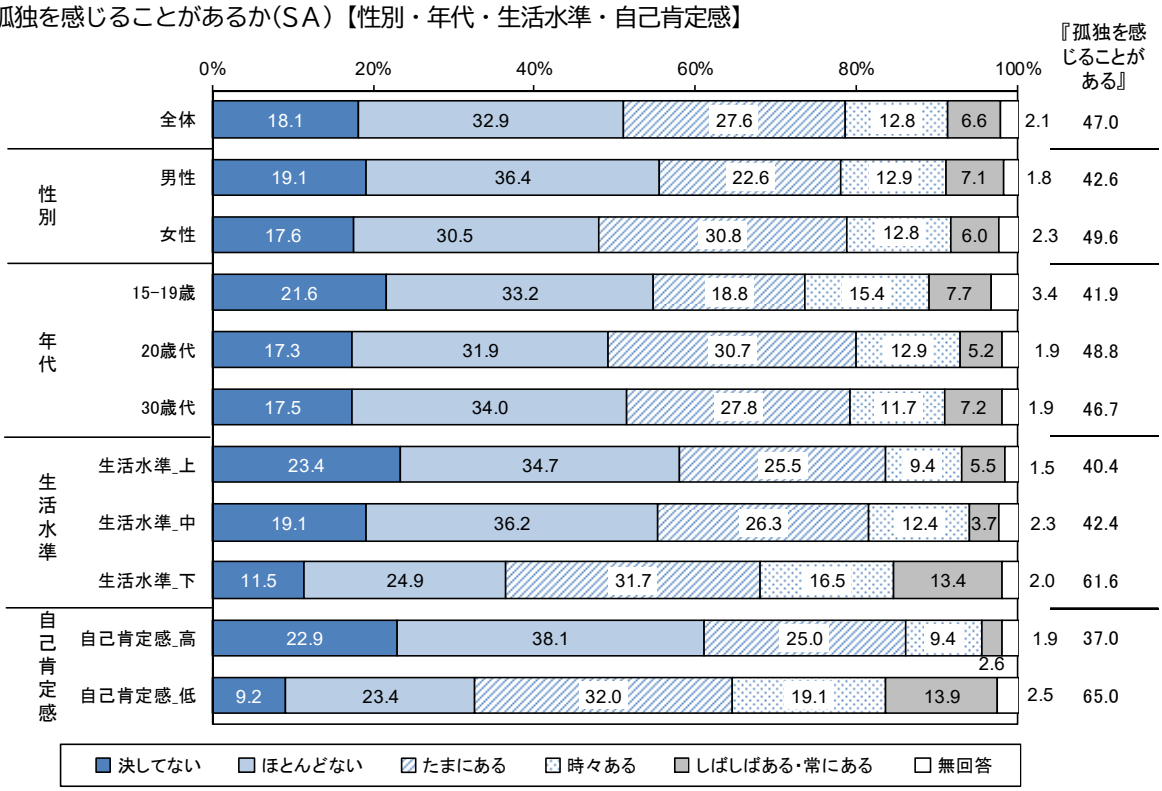
●今の自分が好きだという自己肯定感について、『自己肯定感__高(「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」の合計)』割合は、男性67.9%が女性63.3%をやや上回ります。年代では大きな差は見られませんが、生活水準が高いほど自己肯定感が高い傾向にあります。

◆今の自分が好きだ(SA)【性別・年代・生活水準】



●孤独を感じることがあるかについて、『孤独を感じることがある(「たまにある」と「時々ある」と「しばしばある・常にある」の合計)』割合は、女性49.6%が男性42.6%を上回ります。
年代では20歳代・30歳代でやや高く、生活水準や自己肯定感が低い層で6割台と特に高くなっています。

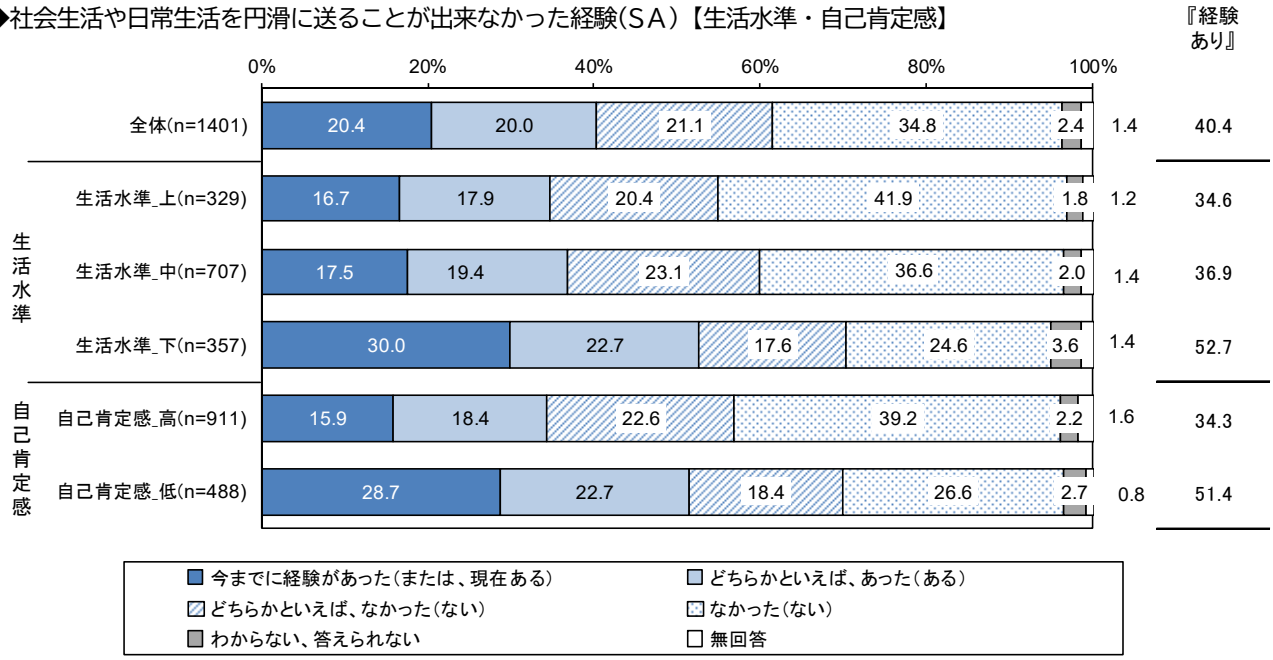
◆孤独を感じることがあるか(SA)【性別・年代・生活水準・自己肯定感】



(3)社会生活や日常生活の状況について

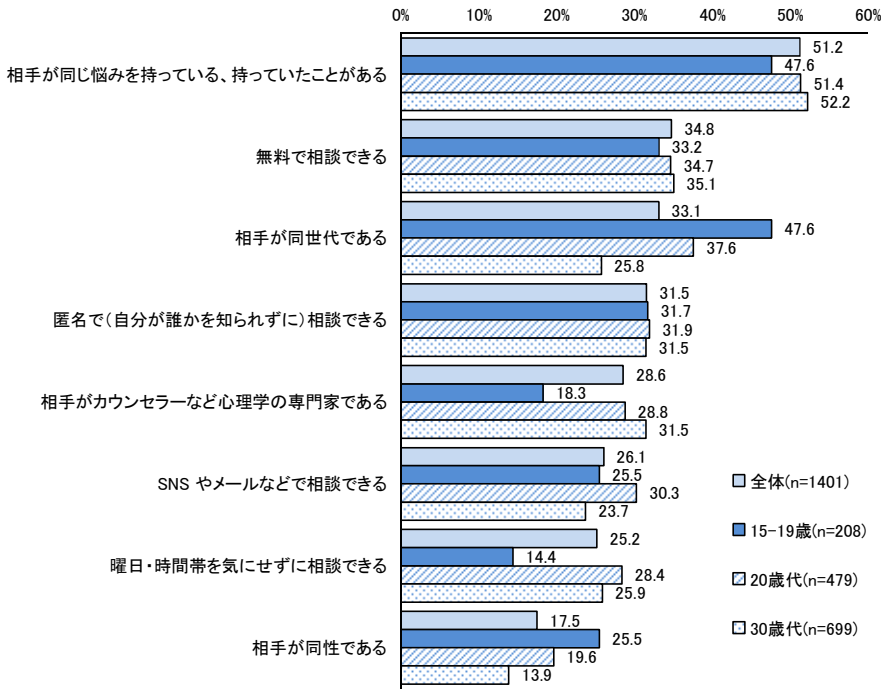
●社会生活や日常生活を円滑に送ることが出来なかった経験については、全体の4割が『経験あり(「今までに経験があった(または、現在ある)」と「どちらかといえば、あった(ある)」の合計)』としています。生活水準や自己肯定感が低い層で5割台と特に高くなっています。

◆社会生活や日常生活を円滑に送ることが出来なかった経験(SA)【生活水準・自己肯定感】



●社会生活や日常生活を円滑に送ることが出来なかった状態が改善した経験については、全体の4割が『改善経験あり(「あった」と「どちらかといえば、あった」の合計)』としています。
そうした時に家族や知り合い以外に相談したい人や場所については、「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」が最も高くなっています。年代では、15～19 歳は「相手が同世代である」、20 歳代は「SNS やメールで相談できる」、30 歳代は「相手がカウンセラーなど心理学の専門家である」との回答が、他の年代に比べ多くなっています。

◆社会生活等に困難があった時に家族や知り合い以外に相談したい人や場所(上位8項目・MA)【年代別】



(4)日ごろ感じていること・こどもや若者に関する市への要望について

こども若者に関する市への要望を自由回答によりたずねたところ、370 人の方より回答を頂きました。

■主な意見

●子育て支援について

・保育園や学童、こどもの預け先の拡充
・保育士や児童福祉従事者の待遇改善による人材確保
・子育て世帯への子育て支援・経済的支援(世帯年収制限の撤廃、中間層への支援等)の拡充
・子育て支援サービスや育成支援に関するわかりやすい情報提供・情報発信
・こどもを産みたいと思える社会づくり(こどもをもつことがリスク、こどもにやさしくない社会になっている　等)
・東京都のような高校の学費無償化など、他市を参考とした手厚い支援を

●こどもの居場所やこども向けイベントについて

・こどもの多様な体験に結びつくようなイベントを開催してほしい
・こどもを遊ばせる公園や体を動かして遊べる場所が少ない

●仕事と家庭の両立について

・仕事と家庭の両立が難しい、女性はキャリアを断念せざるを得ない状況がある
・「小1の壁」による就労継続への不安
・子育てをしながら就労することへの職場の理解

●若い世代への支援について

・シングルへの税制優遇等、未婚の若者への支援拡充
・若者の居場所づくり(安心して相談できる、同世代と話せる　等)
・若い世代が結婚・出産を考えられるよう、将来に希望が持てる政策を
・高齢者だけでなく現役世代の支援の拡充を
・若者向けの飲食店やアミューズメント施設の充実

●生活環境について

・道路環境の改善(歩道整備、自転車専用道路の設置、街灯の設置　等)
・治安の向上(不審者・ちかんへの対応、バイクの騒音、特殊詐欺　等)
・公共施設(児童館、図書館等)の充実、地域差の解消
・子どもが受診できる病院の充実

●自身の生きづらさについて

・心身の病気や障害により働くことが難しい人への偏見の解消、支援
・うつ病や発達障害に対するハラスメントへの対応

3 声をあげにくいこども・若者調査（調査3－③）

項目	内容
調査対象者	福祉関係機関、教育関係機関、こどもの貧困対策に関する支援団体、子育て支援団体
調査方法	直接配布または郵送配布・郵送回収
調査実施期間	令和6年1月中旬にヒアリング調査、2月に調査票配布
調査対象団体数	80 団体
回収数（率）	53 件（66.3%）
直接ヒアリングの実施	5団体（越谷市教育センター、青少年相談室、フリースクール越谷らるご、児童発達支援センター、こども食堂 ぽらむの家）

※調査3－③は、調査2－②関係機関・団体調査と同時に実施。

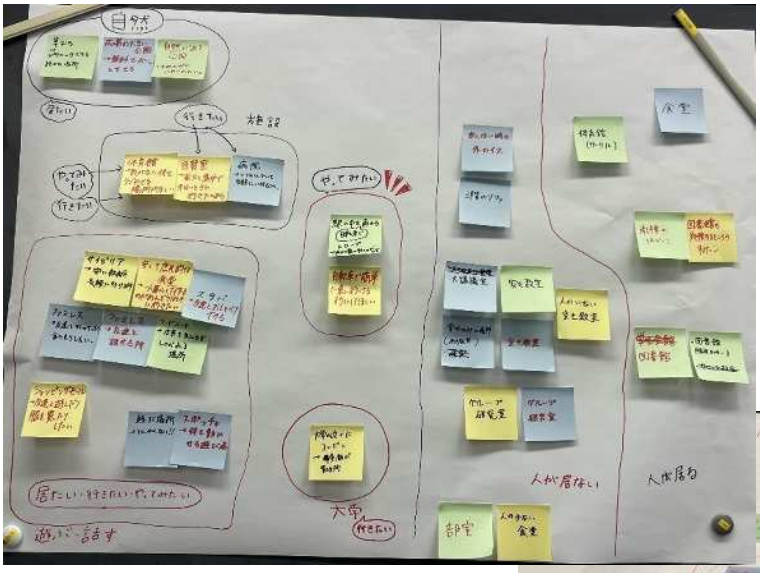
普段接するこどもの意見の代弁 （調査3－③声をあげにくいこども・若者の意見）	
こどもを取り巻く社会について	・経済的貧困よりも愛着の貧困が気になる。物の豊かさよりも、心の豊かさを感じる世の中であってほしい。 ・虐待や貧困は恥ずかしさや辛さにより表に出しにくいものだと思う。「自分は困っている」「辛い」という気持ちを他者へ届けられるような仕組みつくりが必要。
こどもの意見表明	・こどもは信頼している人にしか本当のことを話さない。気持ちの中に隠れている言葉を引き出す必要がある。 ・こどもの声、自己決定を尊重してほしい。 ・こども自身が選択をしたり、自分が嫌なことは嫌だと伝えられる、それを受け止めてあげられる場所が増えるとよい。 ・こどもの願いを叶えられないこともあるが、受け止めて多様性を重視することが必要である。
こどもの居場所について	・こどもと信頼関係を結ぶには、継続的に会って話しをすることが必要で、それが出来る場所が必要。信頼出来る大人に出会える場所としてもこどもの居場所が増えるとよい。 ・不登校のこども達の居場所がもっと必要。教育の機会がない状態で家庭にいる子がとても多い。 ・不登校のこどもにも目を向けてほしい。学校に戻ることを目的とした適応教室だけでなく、フリースクールや居場所など、全てのこどもにサードプレイスを用意してあげてほしい。子育て支援センターなみに各中学校区に1か所くらい、こども食堂、学習支援、居場所と多機能であるとよい。
こどもの視点から	・親のストレスをこどもにぶつけないでほしい。 ・ゆったりぼーっと過ごせる場所がほしい。

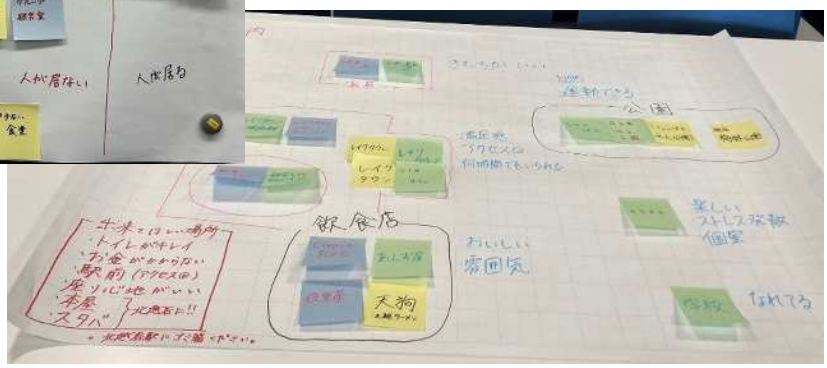
4　大学生調査（調査3－④）

調査名	（調査 3-④）大学生調査
調査対象者	児童福祉分野や教育分野等を専攻する市内大学生 ①文教大学 ②埼玉県立大学　各 50 名程度
調査方法	ワークショップ
調査実施期間	①文教大学　令和6年1月 17 日（水） ②埼玉県立大学　　1月 31 日（水）
調査項目	市内の若者の居場所について

■意見のまとめ

居たい	行きたい	やってみたい
■集中して勉強ができる場所 ■一人で静かに過ごせる場所 ■休むことができる場所 ■いつでも行くことのできる場所 ■いつまでも居てよい場所 ■食べたり・飲んだりができる場所 ■友達と自由に過ごせるフリースペース	■リフレッシュができる ■自然に触れられる ■景色・見晴らしがよい ■ひとりで運動・スポーツができる（ジム等） ■みんなで運動・スポーツができる（運動公園・体育館等） ■自分の気持ちを受け止めてくれる人がいること ■お金がかからずに行けること	■こどもや多様な世代の人との交流ができる ■ボランティアができる ■やりたいことができる ■自由に参加できるサークル（イベント・ゲームなど） ■趣味を活かせる ■市の名所を作りたい





5 こども・若者からの意見聴取（調査3－⑤）

調査名	（調査 3-⑤）こども・若者の意見募集
調査対象者	39 歳までのこども・若者
調査方法	意見募集（郵送、FAX、メール、越谷市電子申請・届出サービス、意見箱への投函など）
調査実施期間	令和 6 年 1 月 16 日～2月 15 日まで
調査項目	市のこども・若者に関する施策全般について（自由記述）
実施結果	3 件

■主な意見

属性	意見
千間台在住 （30 歳代）	■千間台の公園はこどもを安全に遊ばせるための環境が整えられていない ・こどもの受動喫煙を避けるため公園内の喫煙禁止 ・古い遊具の安全確認及び修繕または撤去 ・さまざまな年齢に対応した遊具の設置
レイクタウン在住 （30 歳代）	■レイクタウン周辺に公園はいくつもあるが、日陰がないため 1 年の半分は利用ができない、夏場は熱中症が心配 ■レイクタウン周辺への児童館の開設 ■小学校の見学会を入学直前ではなく、4～5 歳の年中の時期に開催してほしい
南荻島在住 （30 歳代）	■乳幼児の体重測定が常時できるようにしてほしい ・保健センターの指定日時に測定できるが、こどもが小さいうちは気軽にいつでも行ける方がよい ・他の市では保健師による常時対応で相談対応もあった